

つばさ川柳 願法みつる編 (140号)

『自由句』

変わり身へカードマジックトランプ氏 中井 極

五輪費の狙いインフレあるらしい

駆けつけてヒトを護れるヒト並みに

トントンと刻むリズムに母偲ぶ 濱田 喜己

ハンドルを握るアタマによぎる記事

静と動仕分け仕分けて八十路坂

コスモスをバックに撮れば皆笑顔 蜂巣 徹

手をつなぎ歩く夫婦が眩しすぎ

夫婦旅風花の舞う洞爺駅

長生きの目標二十二十年 藤沼 智弘

マイナンバー持つメリットとデメリット

自動運転果たして無事に着くのやら

自由さと不自由同居する独居 堀内今一歩

明日とは今日よりちよつと良い日だよ

被災地の植樹苗木に夢託し

断捨離の捨が終活を始めさせ 若松 靖夫

日々介護力業には息上がり

競い合い悔しい銀と歓喜銅

マグマ君悪者だけを懲らしめて 岩崎 篤子

感嘆符スゴイ一つで通す人

給料をつぎ込んだべべ今じゃゴミ

煙草とは縁が無いのに煙たがれ

佐原 利幸

十五階眺望良いが逃げにくい

一本を下げてきたけど泣き上戸

火の粉浴び耐えた男の逆噴射

末田 洋一

マンネリの海に溺れて日が暮れる

反省の種が尽きない老いの日々

老い酒に酔うて昔の夢を見る

田所 健

年賀状生きているとの証なり

物忘れ認知症かと間違われ

極楽の今日は予定のデイケアー

谷井 修平

老いの恋測ってみたら不整脈

ぎよぎよ毛虫隣の美女の付けまつげ

死なせては呉れぬ医療も癩の種

願法みつる

ホップステップ晩年を宙に跳ぶ

肚据えて覗く地獄は祝祭日

課題 『嘘』

みつる選

泣く子なら嘘ついてでも黙らせる

藤沼 智弘

強がりと嘘ないまぜに芸の内

蜂巢 徹

土に代え嘘を盛った豊洲地下

中井 極

完璧で眉目秀丽嘘匂う

岩崎 篤子

今夜だけあなたの嘘にだまされる

末田 洋一

黒だけど白と言ひ張る人の意地

佐原 利幸

人生はすべてにわたる絵空事

田所 健

歳重ね断る理由軽く出る

濱田 喜己

秀 方便の嘘で修復ままならず

若松 靖夫

秀 妻入院子には旅行と言って置く

堀内今一步

秀 お若いわその気になって凜と立つ

谷井 修平

軸 目と口が語る心の裏と裏

願法みつる

「雑感 4」

私が代表を務める吟社の月刊誌で、五ヶ月間に亘って某同人の紹介記事を載せた。その柳人は、少年の日に突然失明して全盲となり、以来勉学に勤しみ学を修めて、盲学校の英語教師として、三十余年を務めた方である。その後は、川柳に親しみ研鑽を積まれ、広く活動された。また行政と協力して、視覚障害の同士を束ねる川柳吟社を立ち上げ、自ら主宰としてなお活躍しておられる。

そして今、九十二歳にしてなお元気で、車椅子に身を寄せ、ボランティアの方に付き添われながら、句会や大会にも参加されている。ほとほと感服するのは、全く視力のない彼の気が、常に晴眼者のそれと変わらないという事である。

彼の句集から、敢えて視覚障害を意識した句を探すと、次のようなものがある。

手を打って部屋の広さを確かめる

闇がなく光もなくて二十四時

二歩先は信じて歩く白い杖

折り方を変えて紙幣の指定席

脳膜に地図を描いて歩く杖

我が吟社の月刊誌にも、毎月キッチンと寄せられる句からも、この種の悲壮感は全く感じられない。なお意気軒昂なのである。私ども健全者が、年齢と共に心も萎えて行く老化現象を嘆いていては、彼に申し訳ない気がするのである。次号では彼の最近の句を紹介したい。

次回百四十一号の課題は「鉛筆」。課題句二句と自由句は三句をご投稿下さい。締切日は二月末日です。